

PRESS RELEASE

米国のバイオテック子会社を通じた COVID-19（新型コロナウイルス）のワクチン開発の取組み

- 急速に進化している新たなたばこプラント・テクノロジーを使用した、開発中の新型コロナウイルス用のワクチン。現在、前臨床試験が進行中。
- たばこプラントは、従来に比して、より迅速、より安全なワクチン開発の可能性を提供。
- 1週間あたり100万～300万回分のワクチンの製造が可能。



<写真の説明：BATグループのバイオテック子会社が新型コロナウイルスワクチンを開発中>

2020年4月1日：BATの米国バイオテクノロジーの子会社であるケンタッキー・バイオプロセッシング（KBP）は、新型コロナウイルスのワクチンを開発中で、現在、前臨床試験の段階にあります。当該臨床試験が成功した場合には、適切なパートナーとの連携と政府機関の支援により、6月から週100万～300万回分のワクチン製造の開始が期待されます。

KBPは営利目的で事業を行っていますが、この新型コロナウイルスのワクチンプロジェクトは、非営利目的で実施します。

開発中のワクチンは、BATのたばこプラント・テクノロジーを使用しています。この技術は、従来のワクチン製造技術に比べるといくつかの利点があります：

- たばこプラントは人の病気の原因となる病原体を宿すことがないことを考慮すると、より安全である可能性があります
- ワクチンの成分は、たばこプラント内ではるかに早く蓄積されるため、より迅速な製造が可能となります
– ワクチンの製造は、従来の方法では数か月かかるところ、たばこプラントでは6週間です
- KBPが開発しているワクチン製剤は、冷蔵を必要とする従来のワクチンとは異なり、室温下で安定した状態を保つことが可能です
- 一回の投与で効果的な免疫反応をもたらす可能性があります

BATの米国における子会社、Reynolds American Inc.（レイノルズ・アメリカン社）は、新しいカテゴリである非燃焼系製品の開発をさらに進めるため、独自のたばこ抽出技術を有するKBPを、2014年に買収しました。

2014年、KBPは、米国生物医学先端研究開発局と提携し、カリフォルニアに拠点を置くMapp BioPharmaceuticals社（マップ・バイオフィーマシューティカル社）と共にZMapp™を製造し、エボラ出血熱の効果的な対処法を有する数少ない企業の1つとしてニュースになりました。

過日、KBPは、抗原（体内で免疫反応、特に抗体の生成を誘導する物質）の開発につながる可能性のある、新型コロナウイルスの遺伝子配列の一部のクローンを製造しました。そして、この抗原をたばこ葉に注入して増殖させ、たばこ葉を収穫したのちに抗原を精製し、前臨床試験を行っています。

BATは現在、そのワクチンについてできるだけ早く臨床試験を実施するため、政府機関とのパートナーシップを検討しています。政府やその他の製造業者と協力することで、週100万～300万回分のワクチンを製造できるものと考えています。

BATの科学研究ディレクターのDavid O'Reilly博士は次のように述べています。

「私たちは米国食品医薬品局（FDA）と協力しており、次のステップにおける指導を求めています。また、私たちは英国の保健社会福祉省に対し、新型コロナウイルスのワクチン開発の促進を目的とした研究成果の利用を含む支援を申し出ています。

「ワクチンの開発は困難で複雑な作業ですが、私たちはたばこプラント・テクノロジーのプラットフォームを大きく進歩させており、政府やすべての利害関係者と協力して新型コロナウイルスとの戦いの勝利に資する準備ができていると確信しています。グローバル規模の問題と闘うため社会全体が取り組んでいくことにおいて、私たちは国連の提唱を完全に支持します。

KBPはこれまで、たばこプラントの新しい用途を模索してきました。その新しい用途の1つが、プラントを使用したワクチンの開発です。私たちは、このテクノロジーを活用して、新型コロナウイルスの拡散を阻止するための、世界的な取り組みに貢献すべく全力で取り組んでいます。」

お問い合わせ先

FTI Consulting

BAT_SC@FTIconsulting.com

+44(0)77 0332 9964

+44(0)77 9304 1987